

苫東の森 恵み共有

工業団地の苫小牧東部地区(苫東)で市民も親しめる森づくりが進んでいる。活動の中心となつているのは結成8年目のNPO法人苫東環境コモンズ。森の遊歩道となるフットパスを整備するほか、探鳥会などを通じて周辺住民との交流にも力を入れている。森林を共有財産として「森をみんなで守る」という活動方針が少しずつ実を結びつつある。

(山田一輝)

苫小牧市と厚真町の境界にある苫東内の雑木林。会員3人が2日にササ刈りや倒木除去などに汗を流した。間伐が進んだコナラなどの広葉樹林は視界が広がり、明るい雰囲気を感じられる。同法人の草刈健事務局長(65)は「間伐で日光が差し込むようになると、紅葉の鮮やかさも増す」と満足そうだ。

勇払原野を切り開いて造成した苫東は石油や自動車関連の企業が進出する一方、広大な森林や沼地が残る。工業団地を分譲する株式会社苫東も敷地約1万7000坪のうち、3200坪を緑地として残す計画だ。苫東環境コモンズは工業団地にある豊かな自然を保全しようと、株式会社苫東と協定を結んで活動している。

雑木林を手入れ

正会員約30人は苫小牧や札幌の会社員や医者などの森林愛好家たちだ。3年前に入会した苫小牧の会社員富永潔さん(57)は「自分たちの手

なんでも
日胆

フットパス整備のNPO「環境コモンズ」

探鳥、キノコ採り 住民と交流

で森がきれいになっていくのはうれしい」と笑顔を見せる。活動の柱となるのはフットパスの整備。安平町の大島山林と苫小牧市の柏原地区、同市と厚真町の境界付近の雑木林の3カ所で総延長は約20キロに及ぶ。他にも間伐やまき割り、苫東に自生するハスカップの保全など活動は多岐にわたる。

ただ、苫東内に市民が自由に歩けるフットパスがあることや会員の活動があまり知られていないのが悩み。そこで苫東の森の良さを周辺住民に知ってもらおうと、大島山林を会場に市民向けの探鳥会やキノコ採集会を昨年初めて開催。山林付近の安平町遠浅地区の住民各20、30人が参加した。遠浅自治会の須貝政敏会長(68)は「住民が森に入る機会は少なく親しみやすさを感じられる活動はありがたい」と歓迎する。

「みんなで守る」

大島山林を散策する人は少しずつ増えている。今年もキノコ採集会を23日に開催し、苫東の森の良さを市民に浸透させる方針だ。

団体名にも掲げた活動理念の「コモンズ」とは、資源を共同で使用することを意味する。広大な森林を守るには土地所有者だけでなく市民も参加し、自然の恵みを広く享受しながら保全するという考えだ。

草刈さんは「人口減少が進んで個人による森の管理が難しくなっても、みんなで守っていくという将来に向けた実験的な取り組み」と意義を強調。今後の取り組みに向けても「人と森をつなげる活動を進めたい」と意欲を語る。



①苫東の森でまきを運搬する草刈さん
②昨年9月に行われたキノコ採集会(NPO法人苫東環境コモンズ提供)